

コード	304010601
記入日	H23.6.6

課コード	112
課名	こども課
課長名	荒木 宣貴
担当者	村中 佳夫

事務事業途中評価表

作成年度	平成 23 年度
------	----------

評価対象事業名称	私立保育所措置事業費
----------	------------

事業種類	単年度繰返事業
事業期間	平成 17 年度 ~ 平成 ー 年度

総合計画の位置付け				財務会計の位置付け	
政策コード	3	政策名称	誰もが安心できる保健・医療・福祉の充実	款コード	3
施策コード	304	施策名称	ふれあい、支えあい、助けあい、みんなで育てよう未来の宝	項コード	2
基本事業コード	30401	基本事業名称	地域における子育ての支援	目コード	2
事務事業コード	3040106	事務事業名称	私立保育所措置事業費	細目コード	260
関連計画	次世代育成支援地域行動計画		法令・条例規則等	児童福祉法	

計画 (PLAN)

※単年度繰返事業については、全体欄を*****とする。

対象：誰、何を対象しているのか		対象指標：対象の大きさを表す指標				
(対象1) 民間保育園		(対象指標1) 実施保育園数 6箇所				
(対象2)		(対象指標2)				
事業の概要：具体的なやり方、手順、詳細を記入		活動指標：事務事業の活動量を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
(全体)	(評価年度実績)	(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
*****	・民間保育園(桐保育園、青葉保育園、白菊保育園、歡喜園、つばみ幼稚園、福見保育園)に対し、児童福祉法に基づき運営費を助成している。	*****	*****	*****	補助保育園数+私立保育園数	*****
		① 民間保育園数	6箇所	100%		平成22年度
		(達成率分析)	全民間保育園に対し助成している。			
		②				
		(達成率分析)				
目的：何をしたいのか		成果指標：目的の達成度を表す指標・達成率（上段：全体、下段：評価年度）				
		(指標名称)	(指標数値)	(達成率)	(達成率積算根拠)	(目標達成年度)
	・児童福祉法に基づき、民間保育園に対して運営費を支弁して保育行政を行っている。	*****	*****	*****	入所児童数+入所希望児童数	*****
		① 入所児童数	279人	100%		平成22年度
		(達成率分析)	申請者の受け入れを完全実施した。			
		②				
		(達成率分析)				

実施 (DO)

※単年度繰返事業については、評価終了した年度及び評価年度を記載し、その合計を全体計画欄に記載する。

	単位	全体計画		21年度以前	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度以降
		計画	実績	実績	計画	実績	計画	計画	計画	計画
活動指標	① 箇所	39	39	33	6	6				
	②									
成果指標	① 人	1,695	1,695	1,416	279	279				
	②									
総事業費 C (A+B)	千円	1,796,624	1,796,624	1,516,823	279,801	279,801				
直接事業費 A	千円	1,775,624	1,775,624	1,499,323	276,301	276,301				
人件費 B	千円	21,000	21,000	17,500	3,500	3,500				
内訳	従事職員数	人	3.0	3.0	2.5	0.5	0.5			
	人件費単価	千円	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
Cの財源内訳	国補助金	千円	602,920	602,920	507,069	95,851	95,851			
	県補助金	千円	301,458	301,458	253,533	47,925	47,925			
	起債	千円								
	その他	千円	410,618	410,618	349,072	61,546	61,546			
一般財源	千円	481,628	481,628	407,149	74,479	74,479				

評価

※理由の欄は必ず記載すること。

妥当性	・町が税金を投入して行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
	・時代情勢や環境の変化などを考慮しても、事業を行う必要がありますか。	●ある ●ない	理由	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
	・事業の対象・目的は適切ですか。	●適切 ●不適切	理由	児童福祉法に基づいており、適切である。
有効性	・現在の事業の進め方が期待されるような成果をもたらしていますか。	●いる ●いない	理由	保育事業を必要とするニーズに対応している。
	・成果を向上させる余地はありますか。	●ある ●ない	理由	達成率が100%であるため、余地はない。
	・事業を行わない場合の影響はありますか。	●ある ●ない	理由	法律に基づき行っているため、やめることはできない。
	・類似事業との整理統合はできませんか。	●できる ●できない	理由	法律に基づき行っているため、整理統合はできない。
効率性	・直接事業費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	法律に基づき行っているため、削減はできない。
	・人件費を削減することはできませんか。	●できる ●できない	理由	必要最小限で行っているためできない。
	・受益者負担は適正ですか。	●はい ●いいえ	理由	児童福祉法による保育所一部負担金徴収規則に基づき定めている。

改善

改善策	1次評価	妥当性	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
		有効性	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
		効率性	児童福祉法に基づき町が行う事業である。
		課題に向けた改善策	特になし。
	2次評価	妥当性	1次評価のとおり。
		有効性	1次評価のとおり。
		効率性	1次評価のとおり。

住民等の意見	
町の対応	

今後の事業の方向性	1次	2次	3次	
	●	●		このまま事業を継続
				事業内容を見直して事業を継続
				事業費を見直して事業を継続
				類似事業と整理統合
				事業の休止
				事業の廃止

※3次評価については、住民等の意見があった場合にのみ、再公表するものとする。